

# 釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

〈上〉

六十一年度釧新郷土芸術賞の受賞者が決まった。絵画部門は初期のストロブなど静物から半具象へとたゆみない制作へ打ち込む深谷栄樹さん、ピアノ部門はピアノ教師として指導するかたわら、地元に着したコンサート活動を続ける桃井信子さん、箏曲部門は宮城流箏曲の古典を基調に三弦と洋楽との合奏など新しい分野へ挑む鈴木順子さんの三人に贈られる。十五日の贈呈式を前に、そのプロフィールを紹介する。

## 来月、9年ぶりに作品展

深谷さんは十二月八日から

市内の画廊・丹青で、久しぶりである毎日。大作四点を含めりの個展を開く。九年ぶりのた二十点ほどを展示する計画作品展とあって、早朝五時だが、「自分としては何か新しいものをつかみたいと願って

国鉄へもどりたい

今春から釧路ハイミール工

## 北国の哀歓を基調

### 静物から半具象に脱皮

の個展」と深谷さんはいう。場勤務だが、それまでは国鉄の機関士さん。二十一年に十

く愛着を感じた。釧美展に出

時点に今回の受賞。今までの作品から脱皮を」と願ういま、大きな励ましと受け止める。五十年前後から機関士に。深

谷さんは「根室本線や釧網線を走ったが、今はボイラーマン。列車の先頭ですし、大自

個展を前に制作に打ち込む深谷さん

品(現会員)、また全道展にものは快い。やはり本来の職場にもどりたい」と訴える。そんな国鉄マンが絵筆を握ったのは二十歳の頃。寮生活の中で、当時釧美展の役員を務めていた萩原勇雄さんのアトリエに通って、デッサンなどに励んだ。

### 59年に寺島春雄賞うける

深谷さんが描くテーマは大谷さんはスケッチを取るために浜へ足を運び続ける。青を基調にした力強い画面作り。道東に生まれ育ったので、やはり道東をモチーフにした作品に取り組んでいきたい。色彩が暗いといわれるが、道東に生きる者の生活をつかみ、自分なりの絵にまとめられれば」と制作への意欲は尽



絵画  
深谷栄樹さん(四〇)  
(釧路町曙八の一)



たんにツマル僕が廃止!!